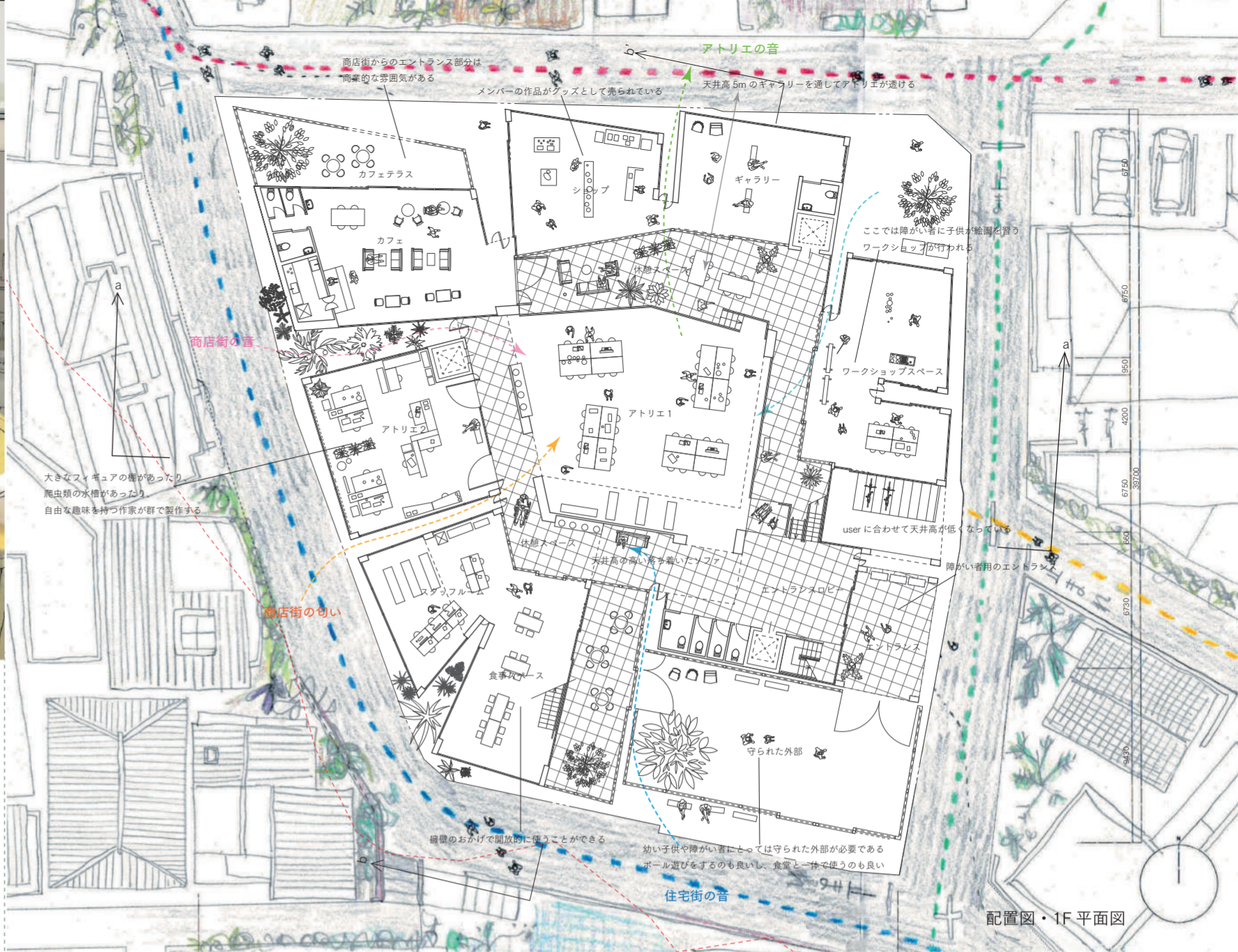


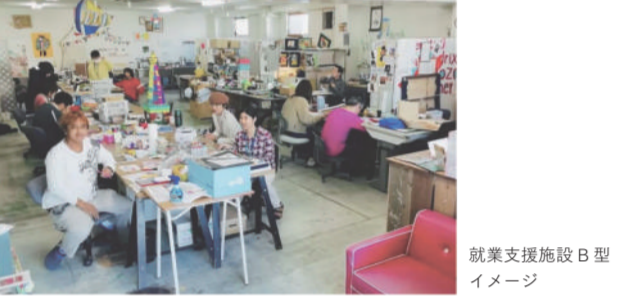
# ハッチポッチスタジオ

## - 都市に建つ障がい者福祉施設 -

障がいのある人の個性豊かな表現が発揮される建築と、それが街の魅力になり得る敷地によって、今まで社会の端々に追いやられてきた障がい者施設や福祉従業者の姿が示された。いくつかの空気の間層とスリットによって、街と建築の距離感を適度に際立させながら、繋がっていることを同時に実現させる。屋外の解放環境が取り巻く、風通しの良い空間を提案する。



### 01. 障がい者福祉施設



就業支援施設B型イメージ  
私には知的障がいを持つこがいる。生活は家と作業所の往復であるが、社会との接点である作業所は閉鎖的で、個性的な労働者に対応したものは言い難い。障がい者福祉施設が都市の中でどのように存在できるかを考えた。

### 02. 成功する敷地

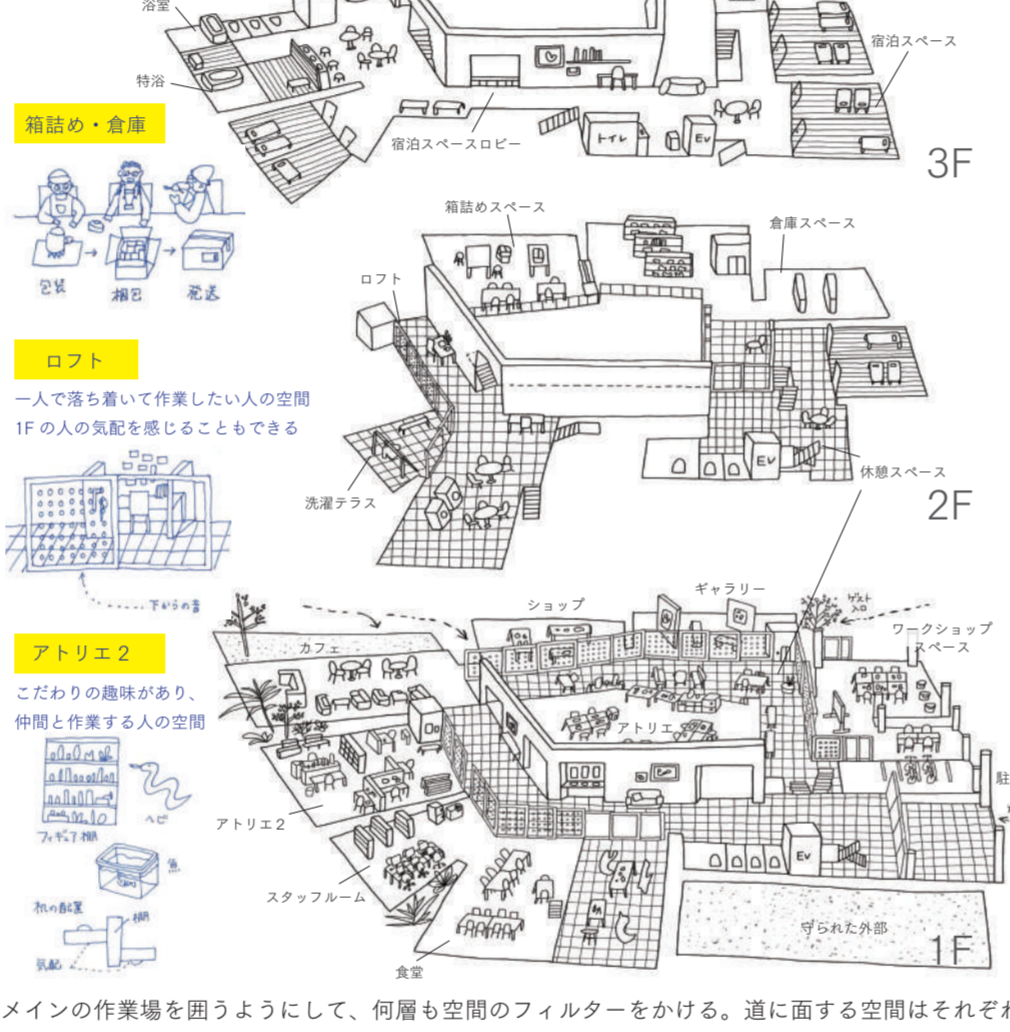


商店街から1本入った、地元の小学生やお年寄り、若者など様々な人が行き交う住宅街に知的障がい者のアトリエを設計する。私はこの土地にどんなものも受け入れて魅力にしてしまう様な寛容さを感じている。

### 03. 障がい者を守りながら外との関わりを持つ



### 04. 全体図



**宿泊スペース**  
地方から来た障がい者の親子が宿泊できる。

**子供のアートスクール**  
ワークショップができるスペース  
メンバーは小学生の絵のお手本

**休憩スペース**  
作業スペースは人によって様々なソファで居座りをしたり、友達と喋ったり、人それぞれに息抜きができる場所がある

### 05. 住宅街での佇まい—ゲストを迎え入れる北側のファサード

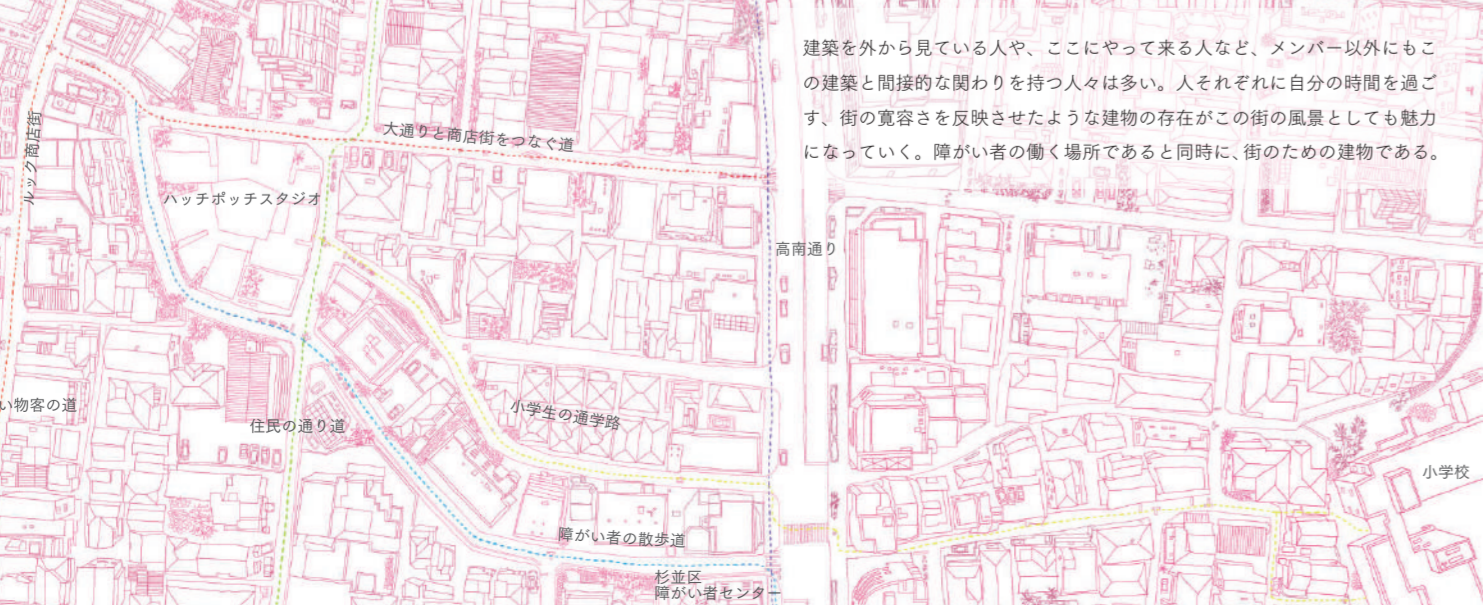


36m 37m 1mの高差  
商店街からの人の流れ

ギャラリー：個展が開かれる  
メンバーは日々個展に向けて作品を仕上げ

ショップ：個性的なメンバーのグッズを販売  
アトリエの活動が遠くから見える

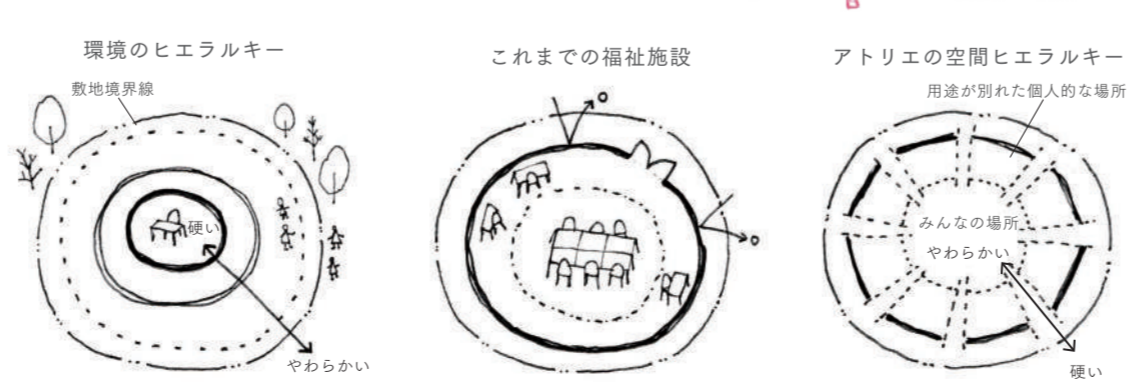
カフェエントランス：お客さんを迎え入れる開放的な空間



建築を外から見ている人や、ここに来て来る人など、メンバー以外にもこの建築と間接的な関わりを持つ人々が多い。人それぞれに自分の時間を過ごす、街の寛容さを反映させたような建物の存在がこの街の風景としても魅力になっていく。障がい者の働く場所であると同時に、街のための建物である。

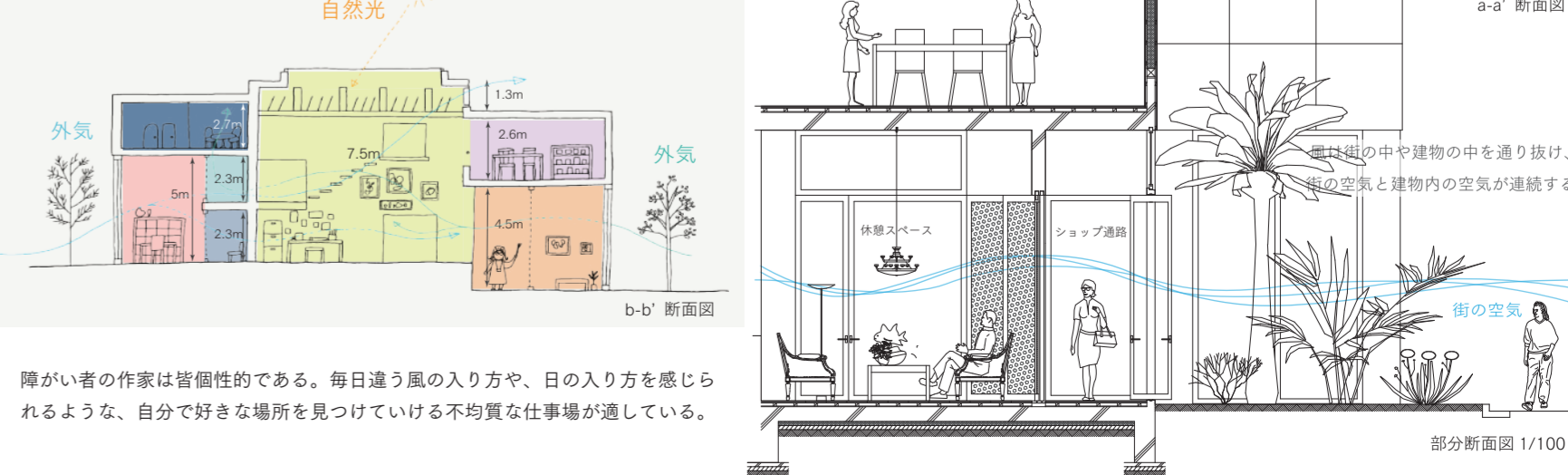


### 06. 環境のヒエラルキーの反転



休憩スペースなど、建築の真ん中ほど外部の環境に近く柔らかい空間になる。建築内にいくつかある通気専用の回転扉を開くと建物の輪郭が破られ、街の匂いや音が入ってくる同時に、こちら側の音も街へ拡張していく。

### 07. 屋外の解放環境が取り巻く、風通しの良い作業空間



障がい者の作家は皆個性的である。毎日違う風の入り方や、日の入り方を感じられるような、自分で好きな場所を見つけていける不均質な仕事場が適している。